



南ぬ風

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌
ふえしぬかし

Vol.32
2014.7~9
夏号



ワクワク工作室

身近な素材を使ったクラフトや工作、昔ながらの手作りおもちゃなどを紹介します。

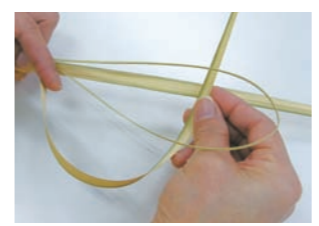
作り方



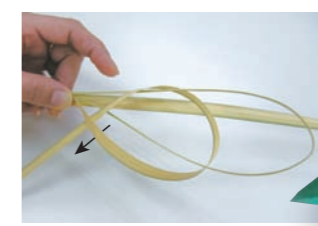
①葉を広げて約10センチを残し芯を裂く。



②葉のあいだに芯をはさみ写真のように持つ。



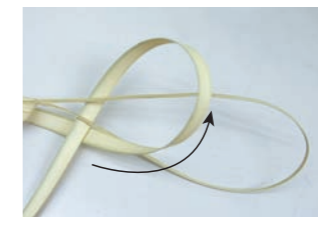
③手前の葉を輪の後ろから回し、芯にかぶせる。



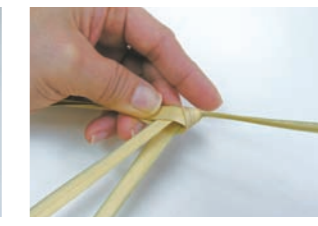
④回した葉を引っ張る。



⑤引っ張って芯にかぶせた状態。



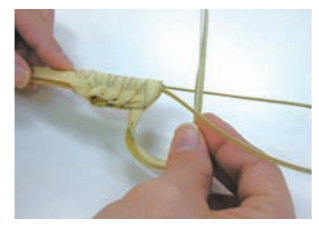
⑥後ろ側のもう一枚の葉を手前から回して、芯にかぶせ、元の位置に戻す。



⑦引っ張ってかぶせた状態。これで1セット *③~⑦を繰り返す



⑧③~⑦までの作業を5セットすませた状態(バッタの胴体ができる)



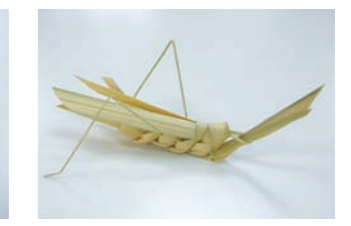
⑨触角になる部分を作る。輪の中に葉を通す。



⑩写真のように葉を輪の中に入れて、芯を引っ張る。



⑪触角としっぽの部分の芯を切り取り、形を整えた後、切り離れた芯の部分を腹の方から差し込み足にする。



⑫差し込んだ足の部分をバランスよく折り、残りの葉で羽を作って差し込むとできあがり。

クロツグの葉でバッタ

材料

クロツグの葉 (長さ50~60cmを1本) とハサミ



沖縄美ら島財団の工作教室に参加してみませんか？

当財団では主にお子様を対象として「美ら島・美ら海こども工作室」や「クラフト作り」等を開催しています。参加ご希望の方は下記ホームページでイベント情報をチェックしてみてください。

美ら島研究センター
<http://okichura.jp/ocrc/event/kousakushitu/>

沖縄県立 名護青少年の家
<http://www.opnyc.jp/>

海洋博公園
<http://oki-park.jp/kaiyohaku/>

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

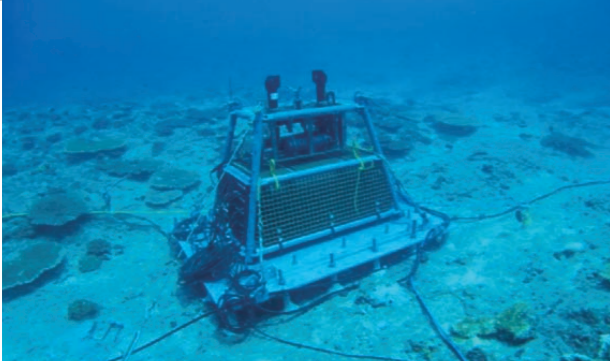
季刊誌 **南ぬ風** 夏号 vol.32
2014.7~9

編集・発行 / 一般財団法人 沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888 TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

2014年7月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団公式サイト《 <http://okichura.jp/> 》 国営沖縄記念公園公式サイト《 <http://oki-park.jp/> 》



写真は、海洋博公園前の海中に設置された海中観測装置。この装置を含めた海中観測システムで、水圧・塩分・濁度といった基礎データに加え、マイクロメートルのプランクトン画像を連続的に顕微鏡撮影できたり、海流の流れを三次元かつミリメートル単位で測定する流向流速計があったりと、さまざまな情報収集が可能。こうしたデータは海底の光ファイバーケーブルを通してどこからでもアクセスできる。

沖縄美ら島財団とOISTは、科学・学術協力に関する基本協定を結んでおり、財団としてもこの装置やケーブルの設置に協力した。



海洋物理学者

御手洗 哲司

MITARAI SATOSHI

沖縄科学技術大学院大学海洋生態物理学ユニット准教授。1970(昭和45)年、和歌山県和歌山市生まれ。フシントン大学をはじめとするアメリカの研究機関で11年にわたって研鑽を積んだのち、2009年9月より現職。研究テーマは「海流による沖縄周辺海域のサンゴ礁及び熱水噴出孔に生息する海洋生物への影響の解明」。

海中観測システムを駆使して沖縄のサンゴ礁の未来を見据える。

沖縄県内のサンゴの多くが死滅し、危機に瀕していると言われる。温暖化やオニヒトデなど複数の原因が指摘されるが、どうして激減したかという決定打となる原因が何かはハッキリとはわかっていない。そんな中、沖縄科学技術大学院大学(以下、OIST)の御手洗准教授による取り組みが、今注目を集めている。海洋物理学の視点から見た、沖縄のサンゴ礁や海洋について話を聞いた。

サンゴ礁を取り巻く沖縄周辺の海を明らかにしたい。

—沖縄のサンゴ礁について、どのような研究をされているのですか？

東南アジアを中心にコーラルトライアングルという豊かなサンゴ礁生息地帯があり、沖縄はその北限にあたります。サンゴ礁生態系の北限ということに加えて、東南アジアに比べると寒い冬や台風といった厳しい環境下にあるのが沖縄のサンゴ礁の特徴です。私は沖縄各地の潮の流れや速さ、水温、酸素量、海中プランクトンなど様々な要因を観測し、サンゴ礁をはじめとする海洋生物にそれらがどのような影響を与えるかを研究しています。

—最近では白化現象がおきるなど、サンゴ礁が激減していると聞きます。

地元の漁師さんなどは、昔とまるで違うと言いますね。その原因として、オニヒトデが大量発生してサンゴ礁を食い荒らしているなどという報道もありますが、地球温暖化や海洋酸性化(大気中の二酸化炭素を海が吸収することで進行)が影響を与えるという人もいます。また、生活排水や土砂の流入が問題という見方もあります。つまり、原因はまだはっきりわかっていないということです。そして、海洋

生物に影響を与えるのは一つの要因ではなく、複合的な要因であることが考えられます。

—実際にどのような調査や観測をされているのですか？

沖縄の海洋研究はまだまだわからないことだらけなので、数え切れないほど多種多様な調査をしなければなりません。例えば、サンゴ礁とより密接に関わるのは黒潮などの大きな流れではなく、海岸ごとに異なる潮流です。しかし、地域を分けて細かい調査をすると途方もないマンパワーが必要とあつて、詳しいことはほとんどわかっていませんでした。そこで漁協やダイビングショップなどに協力してもらい測定機器入りのブイを恩納村をはじめ、沖縄各地から放流してどのように動くかを調査しました。沖縄本島だけでなく宮古・八重山諸島といった離島でも実施してデータをまとめて海流モデルを構築しています。これは船が難破するなど遭難事故が発生した際に、漂流地点の予測などにも役立ちます。また、台風が通過した後の海中は、大岩が流されるなど場所を間違えたかのように地形が大きく変わります。こうした台風時の海洋や海中の状況もよくわかっ

ていません。そこで、波の力を推進力に進む無人のウエーブグライダーに計測機器を搭載し、台風がよく通過する沖縄本島と大東諸島の間を航行させて海水温などのデータを取っています。

—昨夏、海洋博公園の沖合に海中観測装置を設置したというニュースが報じられました。どのようなシステムのですか？

3種類のカメラと15種類の各種センサーを搭載した、海中を観測するシステムです。潮流、水温、酸素量をはじめとする多くのデータを収集でき、さらにリアルタイムでカメラでも確認できるので、貴重な情報が多く得られるのではと期待しています。こうした海中観測システムは世界でもほとんどなく、海洋学のメッカであるアメリカのウッズホール海洋研究所の協力をはじめ、日本や世界各地の研究機関と共同で行っています。

—海洋研究をされる難しさとはどこにあるのでしょうか？

私の研究領域は海洋物理学で、海流と生物の間わりが専門ですが、海洋研究ではやる事が多岐にわたるので、自分一人の手ですべてを行うことはできません。例えば海洋生物の生態については、その分野の専門家の協力も必要です。また、膨大なデータを長期間にわたって集め続ける必要があります。漁協や海上保安庁など様々な人の協力なしには成り立ちません。幸い私が所属するOISTでは複数の学問分野を横断する「学際研究」を推進しています。海中観測装置をさらに設置して、共同研究者らとともにリアルタイムで新しいデータを収集と解析を進めていくつもりです。その結果を生かして、貴重な沖縄の自然をどのように守ればいいのかということ、これからも模索していきたいと思えます。



上: OISTでは、様々な分野ごとにユニットを組んで研究している。海洋生態物理学ユニットのミーティングは立場に関係なくざっくばらんな意見交換が行われる。下: 沖縄周辺海域の海流を調べるために放ったブイ。黒潮の流れに従って北上するだろうという予測を裏切るように、場所によっては南下するものもあるという。



contents

美ら島をつなぐ人	02	御城物語	09
沖縄のこころ	04	運営管理	10
美ら島生き物日記	05	スポットライトの向こう側	12
調査研究	06	沖縄の大木	13
沖縄美ら海水族館の生き物	07	財団いんふお	14
普及啓発	08	美ら島ワクワク工作室	裏表紙

作品タイトル「緑からオレンジへと変化するゴーヤーのカーテン。」色とりどりの蝶が舞い機わに突ったゴーヤーが熟し、オレンジに変わる。豊作を祝う儀式のような光景を表現。



表紙イラストについて
与儀 勝之 Masayuki Yogi
琉球イラストレーション作家 那覇市生まれ。

誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」とは…
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことで。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思えます。



美ら島生き物日記

いのちのゆりかご マングローブ林

Vol.6



写真・文
白鳥岳朋 (しらとりたけとも)
東京生まれ、沖縄在住の水中&陸上 全天候型カメラマン。
1988年から水中撮影を開始。
主な著書・写真集に『おさかな接近術』(阪急コミュニケーションズ)、
『水中を撮る!』(雷鳥社)など。

干潮になると泥の中から出てくるオキナワハクセンシオマネキ。片方だけ大きく発達したハサミで身を守りながら、砂についた植物プランクトンなどを食べる。



沖縄のマングローブといえば、西表島が有名だ。しかし沖縄本島にも多くの生育地がある。

「やんばるでは、大浦のマングローブ林は面積・保存状況の点で良好な林ですね」とは沖縄美ら島財団の阿部篤志研究第二係長。漫湖公園(那覇市)や慶佐次(東村)に知名度では及ばないものの、より自然な環境が保たれている感じがするのだという。

北には多野岳と名護岳、西には辺野古岳と久志岳があり、湧く水は川となり大浦湾へと注ぎ込む。湾の一番奥の潮間帯の、長さ300、幅200メートルという広い範囲にメヒルギとオヒルギが見られる。

干潮時にマングローブ林の中に入ってみた。確かにジャングルのように圧倒するほどの迫力は無いものの、最前線のメヒルギと中央部のオヒルギ、背後に見える山との調和は、まるで日本庭園のようにコンパクトにまとまった印象だ。

オヒルギの花と呼吸根(膝根)、メヒルギの胎生種子が根付いた様子、シオマネキ、アナジャコの家などを見ていくと……なんと、この林には数本しかないと言われているヤエヤマヒルギを発見!

大浦のマングローブ林は、平成7年に名護市の天然記念物に指定され、野鳥や水辺に生息する生き物たちの貴重な生活の場になっている。

本物の爬龍船に乗れなかった時代の人々の想いを受け継ぐ地バーリー

沖縄のこころ

地域の伝統・文化を支える人たち

Vol.6



とまり ちー 泊の地バーリー

豊漁や航海安全を祈願するハーリー。那覇では、琉球王朝時代の行政区分である那覇、久米、泊の3地区対抗で、爬龍船競漕(ハーリー)が行われていた。1879(明治12)年の琉球処分以降、一時期途絶えてしまったが、1922(大正11)年に泊の新屋敷(現在の泊3丁目)の青年たちが復活させた。ところが青年会だけの力では毎年継続して爬龍船競漕を開催できなかったため、ハーリーに代わる楽しみとして、陸上でハーリー歌と共に船を漕ぐ所作をする「地バーリー」が考案された。

「1991(平成3)年に那覇市の無形民俗文化財に指定されたのを機に「泊地バーリー研究会」という名称で登録しました。地バーリーは、泊地域の生年祝いや、9月の敬老会を中心に、首里城祭などのイベントでも披露します。毎月の青年部定例会の際に地バーリーの練習をするんですよ」

とは、とまり会青年部部長の糸数太志さん。爬龍船をかたどった龍頭と龍尾を置き、その間に鐘打ち、歌唄い、中乗り、旗振り、舵取り、漕ぎ手が入り、泊のハーリー歌に合わせて、船を漕ぐ所作をする。

「地バーリーでは、海のハーリーでは歌わない『唐歌』を歌うのが特徴です。



左:とまり会青年部部長の糸数太志さん 右:海のハーリー。武人の多かった泊らしい勇壮な雰囲気

唐歌の歌詞は中国語なんですよ。また、中乗りが演舞する空手は守りの型で、漕ぎ手が權(ウエーク)の先を見る動作は、海で亡くなった人の遺品を探すという意味があるそうです。僕らも先輩から受け継いだ伝統を次代に伝えたいですね」

沖縄での稚魚研究

沖縄を含む南西諸島は、日本の魚の3分の2に当たる約2800種が生息する種多様性の高い地域です。沖縄美ら島財団では南西諸島における魚類相を把握するため、魚の分類や生息域等に関する調査研究を行っています。

魚類相の調査は、採集してきた魚の種類を調べるのが基本となります。これが親の魚であれば、図鑑などの情報が充実しているため、種類の特定は比較的容易ですが、生まれて間もない子どもの魚、すなわち稚魚を調べる場合は親のように簡単にはいきません。これは、稚魚の姿かたちが親とは大きく異なるためです。例えば、沖縄では高級魚として珍重されるハタ類(ミーバイ)の稚魚は、背びれと腹びれが著しく伸長します。また、サンゴ礁の洞穴などに棲むイトトウダイの仲間(アカユ)では、頭部のあちこちに異なるトゲが発達します。このように、稚魚は成長につれて体の形が変化するため、その種類を調べる場合は、体形に左右されないヒレの筋の数(鰭条数:きじょうすう)や筋肉の節の数(筋節数:きんせつすう)など、数えられる特徴(計数

形質)が頼りとなります。ところが、種多様性の高い沖縄では、種類が違っても計数形質が同じというものも非常に多く、稚魚の種類を特定することができない場合がほとんどです。このため、水産重要種であるフエフキダイ(タマン)やブダイ(イラブチャー)、サンゴ礁魚類の主役とも言えるスズメダイやベラの仲間ですら、大部分の稚魚がわかっていません。

これらの問題を解決するため、DNAの分析によって稚魚の種類を特定する研究を始めました。全ての生物が持つDNAは、A(アデニン)、T(チミン)、G(グアニン)、C(シトシン)の4種類の塩基の配列で構成され、その一部は種によって固有の配列となっています。つまり、稚魚から取り出したDNAの塩基配列を成魚と照合することで種を判別することができるわけです。この手法により、現在までに十数種のブダイやベラ類等の稚魚の特定に成功しています。

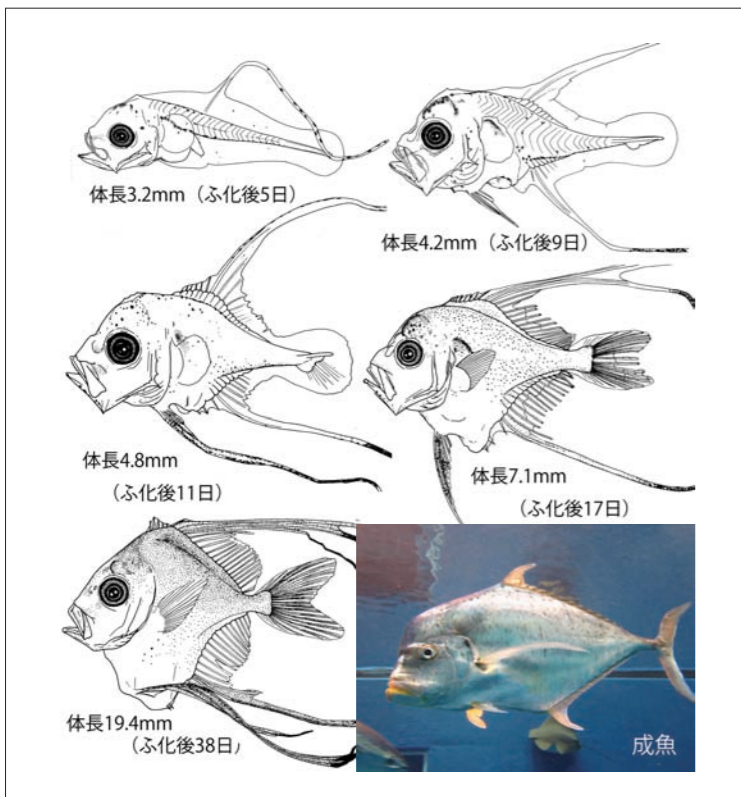
さらに、稚魚を飼育することによってその体の特徴や成長に伴う変化を明らかにする調査も行っています。当財団が管理する沖縄美ら

水族館では、多くの魚が水槽内でも産卵します。そこで、卵を産んだ親の種類があらかじめ分かっている状態で稚魚を育て、体の構造等を定期的に観察することによって、これまでに数種の稚魚の体の特徴やその変化の過程を明らかにできました。

このように、これまで種類が特定できなかった稚魚が少しずつ分かるようになると、南西諸島における稚魚相を明らかにするための基礎的情報が蓄積されつつあります。

今後も研究を継続しつつ、さらなる向上に努め、稚魚の未知の世界を明らかにできるよう努力したいと思います。

(岡 慎一郎)



水族館で育成したウマツラアジの稚魚 (Oka & Odoriba, 2014の図を改変)。ヒレが長く伸びるのが特徴です。

沖縄美ら海水族館で 出会う生き物 Vol.3

和名: キバウミニナ
科名: フトヘナタリ科
学名: *Telebralia palustris*
沖縄名: なし

キバウミニナは、殻長10cmに達する巻貝で西表島と小浜島のマングローブ林の泥砂底に生息します。この貝は、ヒルギ類の落ち葉を餌にしているためヒルギ林の根本にたくさん集まることがあります。キバウミニナは食用にはなりません、マングローブ域に生息する生物の食物連鎖と深く関わるため、重要な生き物といえるでしょう。しかし最近では、移入によって持ち込まれた個体が生態系に悪影響を及ぼす可能性が心配されています。

(伊藝 元)

左: 体長5.5mmのイトトウダイ科稚魚 右: 同科のキビレマツカサ成魚

体長5.8mmのマハタ属(ハタ科)稚魚

同属のカスリハタ成魚

上図 DNAの照合による稚魚の種判別の手順

「ふれあい」を手助け



沖縄県立名護青少年の家は、名護岳の中腹に位置していますが、名護市内から1.6kmと市街地から大変近く、しかもその近さを感じさせないほど豊かな自然に囲まれた研修施設です。

沖縄美ら島財団では、豊かな自然に囲まれた立地条件を活かし、色々な動植物との「ふれあい」や自然を活かした様々な活動を通じて家族や仲間たちとの「ふれあい」を手助けする、そんな施設としてたくさんの方々にご利用して頂けるよう職員一同努力しております。

平成25年度には「親子ふれあい



親子ふれあいキャンプの様子

キャンプ」「名護岳トレッキング教室」「なんぐすく桜見ウォーク」「キッズアドベンチャー」など計20余りの事業を実施しました。その中の「親子ふれあいキャンプ」では、専門職員のアドバイスのもと、各家族で協力してテントを張り、クラフト工作を行い、野外炊飯に挑戦し、参加者みんなでハイキングやカヌーなどのアクティビティを行うという3つの「ふれあい」を体験して頂きました。家族や自然とのふれあいは家族旅行などでも可能ですが、初めて知り合った他のグループとの

「ふれあい」というのは、研修施設である名護青少年の家だからこそ体験できることではないかと思えます。

このように名護青少年の家では、さまざまな事業体験を通じてみなさんにきっかけを提供することで、「ふれあい」の大切さを感じて頂けたらと考えております。

(狩俣 孝浩)

御城物語

Vol.5

かつて、首里の人々が「御城うぐし」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関するトリビアを語る歴史エッセイ。

首里城 木曳門(こびきもん)

首里城公園の西のアザナ近くの「木曳門」をご存知ですか。現在は、車イスコースとしてご案内しているスロープの先に見えるぼつかりと口をあけたような門です。

さて、首里城の門には、守礼門のような瓦葺の屋根がある柱で建った牌楼形式の門、木曳門のような石造りのアーチ型の門、歓会門のようなアーチ門の上に櫓が乗っている門、瑞泉門のような櫓門、また広福門のように門に建物が付いた門等、大きく5つのタイプがあります。守礼門は、首里城の入り口としての門で扉はありませんが、この木曳門にも扉がありませんでした。何故でしょう。

実は、琉球王国時代、木曳門のアーチ部分は通常、石でふさがれていました。門が開くのは、首里城を修理する時だけでした。修理のための材木を搬入するために利

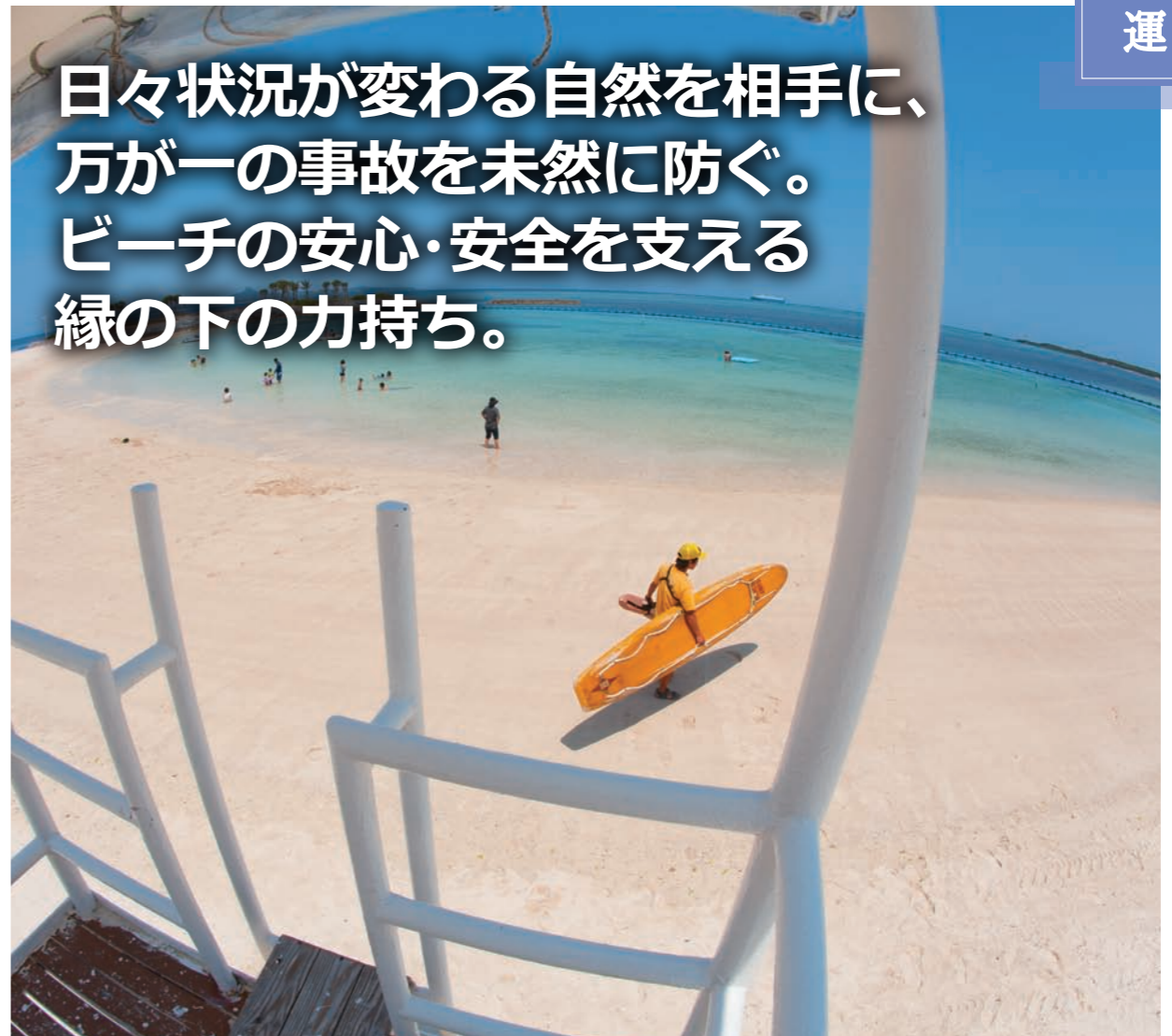
用されたことから木曳門という名前がついているのです。本島北部の山原の山々から木を伐り、首里城まで大勢の人々が曳いてきた情景を歌った「国頭サバクイ」の歌は有名です。急な階段が多い首里城において、材木を曳いて搬入するための琉球王国時代の人々の知恵ですね。

木曳門は15世紀頃に創建され、沖縄戦で破壊されましたが、1992年に復元公開され、幅は2メートル、高さは2.5メートルの門となっています。現在は、毎日、日没後に西のアザナとともにライトアップされ、なだらかなカーブを描く城郭は来園者だけでなく、地域住民の方々の散歩コースとして親しまれています。初夏にはテッポウユリやゲットウが花咲く園路をお楽しみ下さい。

(久場まゆみ)



日々状況が変わる自然を相手に、 万が一の事故を未然に防ぐ。 ビーチの安心・安全を支える 縁の下の力持ち。



沖縄を代表するビーチの一つ。毎年7月に開催される海洋博公園花火大会の際にはこのビーチに2万人以上が詰めかける。

みんなが安心して遊べるよう、
チームワークで安全を確保。

4月1日の海開きから10月31日までの遊泳期間内で、10万人を超える人が訪れるエメラルドビーチ。小さな子どもも安心して遊べるとあって、観光客だけでなく地元客にも大人気のビーチだ。遊泳水域には白いコーラルサンドが敷き詰められ、コバルトブルーの海とのコントラストも美しい。水質は『AA(もつとも良い)』と認められ、2001年に「水浴場八十八選」、2006年には「快水浴場百選」に認定。運営管理の面でも沖縄県公安委員会から「安全対策優良海域レジャー提供者」に指定されるなど、一定の評価を得ている。

「遊泳期間中は監視員の皆さんは毎朝ミーティングを開いて、情報共有をします。海の状態は毎日変わるのだから、この仕事を担当するようになってから、天候は常に意識するようになりました」と語るのは、国営公園管理部企画運営管理チームビーチ担当の桃宇雄士さん。こまめに天気予報をチェックするのはもちろん、海洋博公園周辺の空の様子を見るのも怠らない。

「お客さまにケガや事故が起きないように、現場の安全管理と監視員の教育指導するのが仕事です。夏は突発的に雷雨が発生することもありますし、常に上空は気になりますね。また、遊泳区域の海中は、毎朝、海中有害生物駆除担当者がチェックして、ミノカサゴ、ウミヘビ、ラッコ、ニ、ガンガゼ、イモガイなどの危険生物を取り除きます。また、安全と安心を提供するために、救護室には看護師が常駐して、万が一に備えているんですよ」

エメラルドビーチには「遊びの浜」「憩いの浜」「眺めの浜」と3つに区分された砂浜があり、3千人以上が海遊びを楽しめるという規模。特に夏場は来場者が多いこともあって、現場では予期しない事態が起こることも。小さい子から目を離す若い親や、飲酒して遊泳する人には注意が必要だ。また、招かれざる客が来ることも。

「台風には要注意ですね。空は晴れていても、海にうねりがあると危険ですし、いつ遊泳禁止にするか判断が難しいこともあります。ハブクラゲ侵入防止ネットの巻き



双眼鏡、無線、メモ帳、携帯、チューブやボードなどの救助器具が監視員の必需品。

上げやビーチチェアなどの撤去、台風通過後の清掃などは施設管理担当者も監視員も、僕ら利用サージャス担当も一緒にやってやりますよ。困るのが、台風が過ぎて晴れていればすぐに泳げると思っているお客さまからの要望。海が荒れるといるんなものが漂着しますし、海中の危険生物がいないこともしつかり点検して、安全確保してからでないかと、こちらとしては遊泳開始の指示を出せません。僕も台風が過ぎれば早くビーチを開きたいけど、大型の台風で園路が砂をかぶってしまうと重機を出して整備し直す必要もありますし、過去には最大で数週間閉めたこともあります。お客さまの要望と安全

確保の板挟みになることも多いんですよ」
ゴールデンウィーク前の4月と、夏休み前の7月には、ビーチの運営に携わるスタッフ全体での救助訓練を行い、常にスキルアップも心がけている。「実際にビーチを見ている監視員や、公園内を回るパトロールカー、公園内の警備員とは、常に無線で情報共有をしながら連絡を取り合っています。僕らの仕事は、エメラルドビーチに遊びに来られる方に、安全に安心してビーチを利用していただき、お客さまにケガや事故がないように、万全の体制で臨んでいるんですよ」



①



②



③

1:天気予報と実際の天候を見つ、その都度状況判断をしていく。2:無線はビーチ監視員、警備員、遊覧車、水族館案内など各セッションと共有の回線を使用。3:今年度行われたビーチでの救助訓練の様子。



④

4:救助用の水上バイクで万が一にも迅速に対応が可能。5:毎朝30分以上かけて遊泳区域内を縫うように泳ぎ、有害生物を除去する。モリ、たも網などが必需品。6:毎朝行われるミーティング。監視員は日本赤十字社の水上安全救助員の資格保有者。



⑥



⑤

東京では「笑っていいとも」などの有名番組でカメラマンとして活躍していた長田さん。ある時、テレビで見た水中映像に衝撃を受け、「水中カメラマンになりたい」と決意。27歳で沖縄へ移り住み、ダイビングショップでインストラクターとして働きながら潜りの腕を磨き、現在は沖縄を拠点に国内外の水中映像を撮影している。沖縄美ら海水族館では、黒潮の海大水槽手前にあるハイビジョンシアターで流す映像や、銀座ソニービルの巨大ビジョンで流す沖縄美ら海水族館のプロモーション映像などを手がける。



TV 水中カメラマン
長田 勇 おさだいさむ

「ダイビングのスキルアップのために沖縄へ引っ越したそうですね。」
長田「もともと自然の映像は好きだったんですよ。ずっとスタジオで撮影している自分というのが想像できなくて。東京にいと週末に潜る程度ですから、なかなか潜りが上手にはなれない。これは潜り込まないとダメだと思って、ダイビングショップ

でインストラクターとして働くことにしました。結果的には5年ダイビングショップにいて、それから水中映像を撮る仕事をするようになりました。ちょうど与那国の海底遺跡ブームの頃でラッキーだったかもしれない。与那国の同じ場所を撮影するのでも、番組や切り口によって、撮り方は違います。深く流れるもあ

沖縄美ら海水族館の水槽内で水中撮影をする長田さん。営業時間内の撮影ともなると、来場者の注目の的だ。



る危険な場所なので、潜りと撮影、両方の技術が求められるんです。結果を出すうちにテレビ番組のディレクターや地元のダイビングショップの方々と信頼関係ができていきました」

「撮影意図を理解した上でそれに合わせた撮り方をします。求められる映像を的確に撮ってくる人は、制作側から見ると貴重な存在でしょうね。」
長田「おかげさまで、与那国の映像がきっかけになって次の仕事が順調に来るようになりました。フリーの水中カメラマンでやっていくには、他の人と同じ映像を撮っていても仕事はもらえません。クオリティを追求しつつ自分ならではの映像を撮るよう心がけました。駆け出しの頃は安定した映像を撮りたくて、ジムのプールでビート板がブレないように修正し

ながら泳ぐ訓練をしました。今でも、撮影がない時は体慣らしのために、なるべく海やプールに入っています。2週間も間があくと、体が水になじまないんですよ。自分の体のバランスを保つには、水慣れが大切だと思います」

「普段は海で、自然を相手にした撮影をされているわけですが、水族館の水槽は勝手が違う部分もあるでしょう。」
長田「自然の中とは違う緊張感があります。沖縄美ら海水族館のスタッフの皆さんは生き物に対する愛がすごいんですよ(笑)。『マンタやジンベエにカメラのケーブルをひっかけて死なせたらいけない。もしひっかかりそうになったら、ケーブルを切りますよ』と本気で言われますからね。こちらも絶対に生き物を傷つけたりしないように最大限気を遣います。撮影当初は、沖縄美ら海水族館のスタッフも一緒に水槽に入りましたが、回を重ねるごとに信用を得て、今では自由に撮影させて頂いています。魚にとってストレスにならないように撮るのが、結果的にいいものが撮れるという点ではフィールドも水槽も同じなんです。生き物の目や動きを見たいれば、嫌がっているのか撮ってもいいのかわかりますから」

「沖縄美ら海水族館の撮影で最も気を遣うのはどこですか？」

長田「サンゴの水槽です。狭い中でサンゴを絶対にキズをつけないように三脚を立てたり、歩いて移動するのは細心の注意が必要です。外から見ているよりもシビアですよ。営業時間内での撮影もよくありますが、大勢の人が見守る中で、万が一にもサンゴを折るようなことが

あつてはいけません。特殊なところですよ」

「結構なプレッシャーですね。」

長田「ただ、フィールドでも生き物に対する気持ちは基本的に同じ。こちらが愛情をもって接したら、野生のウミガメも表情が違いますよ」

「沖縄美ら海水族館の中で一番好きな生き物や場所はありますか？」
長田「黒潮の海大水槽は興奮します。

普通に潜っているだけでは、なかなか見られない生き物がいっぱいいます。早朝は特に水が澄んでいてキレイなので、朝8時半までには撮り終わるように入りたいですね」

「水中カメラマンとしての今後の目標は何かありますか？」
長田「以前撮影した映像を見ると、今になって『もつとこうすれば』と思えることがあります。カメラマン

としてまだ上達できるということは、ますます手を抜けなくなるということでもある。体力では若い人に勝てなくても、経験値でそれを補うこともできます。70歳までは現役で撮れるように、トレーニングも続けたいですね」



大木 沖縄の

<和名>
イジュ
<科名>
ツバキ科
(学名: *Schima wallichii*)
Vol.24

イジュはツバキ科の常緑高木で、沖縄本島や八重山、奄美大島に分布しています。沖縄の方言名ではイズ、インジャナキと呼ばれています。開花期は5月から6月頃の梅雨時期で、樹形全体を覆う白い花を咲かせ、ほのかに甘い香りを放ちます。果実は10月頃に成熟し、5つに裂けることで膜質の翼をつけた種子を散布します。材は堅くて割れにくく、耐蟻性であることから沖縄では一級の建築材として利用されています。また、樹皮には毒(サポニン)が含まれており、魚毒として用いられていました。

沖縄県本部町伊豆味のイジュは、樹高20m、地際部周囲では450cmあります。地上から約90cmのところ幹が3つに分かれ、それぞれの胸高周囲は110cm、290cm、210cmと県内のイジュの中では最大級です。

このイジュは、集落ができた頃にはすでに存在しており、以後300年間地元の方々によって大切に守られてきています。今では、子ども達が授業の一環として、巨木探しに利用するなど地域と密着した存在になっています。また、傍には湧水が流れており、正月には産井泉(ウプガー)としてお供えに用いたり、日々の飲み水として利用され、地元の方々によって毎月の草刈や清掃などが行われ大切に扱われています。湧水は地元の方々だけでなくイジュにも大きな恵みを与え、大木へと成長させたのでしょう。今後もこの自然豊かな環境を守り、次世代へ引き継ぎたいものです。

(金城 裕太)

なごアグリパークの 指定管理者になりました。

「なごアグリパーク」は、名護市が計画し建設を進めている農産物6次産業化支援拠点施設です。

「なごアグリパーク」は農産物の加工支援施設、加工品を販売するショップ、レストラン、観光農園からなる複合施設で、平成25年度から3年計画で工事が進められており、2014年3月に第1期工事が終了し、加工支援施設と駐車場が完成しました。

加工支援施設は6次産業化支援の核となる施設で、6次産業化を目指す農家が加工品を開発し、試作品などをつくることのできる加工研究室と、実際に6次産業化に取り組んでいる農業者が自立するために事業を行うことができるインキュベーター室が2室あります。

沖縄美ら島財団は2014年4月「なごアグリパーク」の指定管理者に特定され、平成26年度は施設全体の維持管理と加工研究室内の運営を行っていきます。加工研究室にはあらゆる食品加工に対応した機械類が設置されており、食品加工の技術者を配置し、利用者に機械の使い方や加工に関するアドバイスなどを行います。

2014年6月4日に内覧会が開催され、6月6日より加工研究室とインキュベーター室1室が稼働しています。沖縄美ら島財団は、「なごアグリパーク」の活用を通して、名護市の農業の活性化に寄与したいと考えています。



原料の洗浄・皮むきから包装に至る、食品加工に関する様々な業務用の機器が設置されています。

沖縄の動植物を より身近に！

美ら島研究センターでは、普及啓発事業の一環として地域の学校や公共団体等へ講師を派遣する「環境学習会」を実施しています。

平成25年度はウミガメやサング、イノシシの危険生物等を題材とし、生き物の生態に関する解説、骨格標本や模型を用いた生き物の形態観察等を行いました。参加者の中には、テレビや水族館などで見ただけの生き物が、身近な海で生息していることに驚いている人もおり、改めて沖縄の自然について興味を持ってもらえたようでした。

今後も沖縄の人々の身近にある動植物等に関して、学校や地域の方々への普及を図るとともに、学校の授業内容とも連携した事業展開を図りたいと考えています。



沖縄美ら島ファームのフルーツカフェ (草果菜/Sou・Ka・Na)オープン！

2014年4月26日、那覇市国際通りの沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅら」内に、沖縄美ら島ファームのフルーツカフェ(愛称:草果菜/Sou・Ka・Na)がオープンしました。

本部町産のアセロラを使った「生アセロラジュース」、沖縄に自生する薬草、長命草と今帰仁村産クワン草などを使った「長命草・琉球薬草スムージー」、そして、たっぷりマンゴーと豆乳の絶妙なバランスで作った「マンゴー・豆乳スムージー」

他にも、生パインを練り込んだ「生パインアップル(果肉)ソフトクリーム」、沖縄美ら海水族館オリジナルのちゅらうみしおソーダにソフトクリームをトッピングした「ちゅらうみしおソーダフロート」など、12品目のメニューでスタートしました。

これからの展開としては、沖縄美ら島ファーム自社農場と契約農家が作る高級パインアップル、スターフルーツ、ドラゴンフルーツなど、季節限定のフルーツ販売やオリジナルティー溢れる商品開発を行い、美ら島ブランドの向上に努めてまいります。

日常の忙しさから抜け出し、『ホッ』とひと息リラックススタイム。大型スクリーンでダイナミックに泳ぐジンベエザメや、ナンヨウマンタを眺めながら、美味しいスムージーやソフトクリームはいかがですか？

心も体もきつご満足頂けると思っております。そんな国際通りのオアシス空間を目指し、スタッフ一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。



人気のちゅらうみしおソーダフロート(左)とプレミアム生ソフトクリーム(右)

水族館県外PR OKINAWA#15

2014年5月10日(土)、11日(日)の2日間、東京都・代々木公園にて行われたOKINAWAまつりへブース出展を行いました。期間中は天候に恵まれ、2日間合計で約12万人が来場しました。パンフレットやシールなどのPRグッズを設置、フォトスポットになるようジンベエザメ等身大パネル、公園バックボードの掲出を行い、夏に向けた海洋博公園・沖縄美ら海水族館への誘客活動を実施しました。

